



「性と健康を考える女性専門家の会」勉強会  
「生き生きと生きるための安楽死～  
オランダ：生命の終結における医療的決定」  
講師 シャボット あかね(コーディネーター、通訳)

日時：2015年4月18日(土) 18時～20時

会場：朝日エル会議室 東京都中央区築地 2-12-10  
築地MFビル 26号館 5階

参加費：会員 700円 非会員 1,200円 学生 500円

参加申し込み：お名前、ご所属、会員／非会員 ご連絡先を明記の上  
「性と健康を考える女性専門家の会」事務局まで  
メールでお申込ください。pwesh@ellesnet.co.jp

1970年代からオランダの安楽死は、多くの誤解の中で世界の注目を浴びてきました。当初から「要請による生命の終結」(「安楽死」の正式名称)は、自己決定権の行使だけではなく、医療的決定、特に緩和ケアの一環として、オランダ社会では捉えられています。自分が選んだときに安らかに死ぬという約束があることは、どれだけ患者に生き続ける意欲を与えるかは、安楽死を認める社会であるからこそ知られていることです。

安楽死という選択肢があるので、オランダではその他の生命を短縮・終結する可能性のある医療的処遇を明確にする必要がありました。オランダが使用するようになった分類は、現在欧州で広く採用されるようになっています。

とはいえ、安楽死は通常の医療行為ではありません。要件を満たした上で、医師は申告手続きをしなくてならない一方、医師は患者の安楽死要請を拒否することもできます。医師に実施を断られた患者が選ぶ「よき死」への道、自己安楽死は、オランダ社会で最近知られるようになった現象です。

「安楽死を選ぶ～オランダ：『よき死』の探検家たち」(日本評論社、2014年)のトピックを中心に、オランダ人にとっての「よき死」の現状について、日本の専門家の方たちと対話をもちたいと願っています。

【講師プロフィール】



1947年東京生まれ。父アメリカ人、母日本人。国籍アメリカとオランダ。ワシントン大学およびピュージェットサウンド大学で修士号取得後、東京教育大学大学院で日本文学研究。1974年からオランダ在住。現在通訳、コーディネーター、執筆業。日本語著書『自ら死を選ぶ権利—オランダ安楽死のすべて』(徳間書店)、『オランダ暮らし十二カ月』(平凡社)、『オランダからの手紙—私がオランダ人になったわけ』(泰流社)。近著：『安楽死を選ぶ—オランダ・「よき死」の探検家たち』(日本評論社、2014年出版)(当日発売予定)

「安楽死法」として知られる「要請による生命の終結および自死の援助審査法」施行10年後、緩和ケアの一環として定着したオランダ安楽死の実情を、高齢者のニーズに焦点を当て、インサイダーとして伝える。さらにオランダでもようやく知られ始められるようになった「自己安楽死」の動きをレポート。著者の親族を含む豊富で具体的な事例、「よき死」を可能にするオランダの法律と医療制度、社会的背景もカバーする。オランダの安楽死に関する最新の文献も紹介。